

つなぐ



茨城キリスト教学園
ニュースレター

vol.5

2023
JANUARY

第5号

茨城キリスト教大学大学院/茨城キリスト教学園
茨城キリスト教学園高等学校/茨城キリスト教学園中学校
茨城キリスト教大学附属認定こども園(みらい園・せいじ園)

発行日 2023.01.26.THU
編集・発行:法人事務局学園広報担当

バックナンバーも含めて
学園HPでご覧いただけます →

学園クリスマス



水戸駅アドピラー



3年ぶり ようやく
躍動あふれる1年に。

ウクライナ講演



学園クリスマス

新型コロナウイルスの影響
で中止・規模縮小されていた
文化祭(シオン祭)や、学園
クリスマスが念願の対面
開催となりました。
街も、人も、学園も、少し
ずつ動き出しています。



シオン祭



成年年齢
20歳▶18歳

高校生のための メディアリテラシー講座

ローガンファックス記念講堂 2022年12月開催 高校1年生対象



NHK(日本放送協会)水戸放送局・小川航局長による、本高校1年生を対象とした、メディアを正しく理解し・付き合うためのメディアリテラシー講演が学園講堂にて開催されました。昨年水戸放送局の局長に就任されるまでの政治部取材記者としての経験談をもとに、SNSの広がりの中で、身近なものから世界を巻き込む規模のものまで様々な“情報”を扱う上でのルールやマナー、そして危険性(リスク)について、ご講話いただきました。

CHAPTER

1

いま私たちを取り巻く情報環境 ～受け手と知ってほしいそこに潜むリスク～

SNSを中心に身の回りで起こっているプロバガンダ(特定の思想によって個人や集団に影響を与え、その行動を意図した方向へ仕向ける宣伝活動)やフェイクニュースへの対策について、NHKで放送された番組等も織り交ぜながらご説明いただきました。

CHAPTER

2

確かな情報にたどり着くために ～体験的「取材」論～

ご自身がNHK政治部記者時代に出演したニュース映像を例に、「裏付け」の大切さを解説。また、発信するときは、情報の受け取り手がどう感じるか、傷つけることにならないか考えることが重要だと教えてくださいました。

フィルターバブル

インターネットの検索サイトが提供するアルゴリズムによって、「ユーザーが見たい情報」だけに囲まれてしまう状態。



「裏付け」の大切さ

記者は「歴史の証言者」であることから、裏付けが取れた“確かな情報”のみを伝える義務がある。

わたしたちの日々の発信でも気をつけましょう!



NHK水戸放送局
小川 航 局長

神奈川県横浜市出身。早稲田大学政治経済学部卒業後、NHKに記者として入局。政治部で長く活躍され経営企画局を経て、2022年7月に水戸放送局局長に就任。

あなたは大丈夫? おさえておきたいこと・キーワード

傷つけていない?



情報を発信するときは、受け取り手がそのメッセージを見た時にどう感じるか、傷つけていないかを考えることも大切。

発信する前に…

フェイクニュースが広まる一番の要因は「口コミ」。不確かなことや、怒りや不安を感じた時こそ拡散は控えて。



外務省キャップ時代にご自身が出演したニュース映像を使い「裏付け」の大切さを解説



「メディア関連の仕事に必要な力は?」という質問に対し、「様々な物事に対する飽くなき探求心」と強く語る小川局長

参加した生徒たちの感想

..... 一部抜粋



ため一旦冷静になって考えることが大事だとわかりました。僕も情報を信じやすい人間なので色々な見方ができるようにしたいです。

自分の言葉で誰かが傷つくかもしれないということを理解して自分の言葉に責任を持ちたいと思いました。また、一つの情報を鵜呑みにするのではなくいくつかの情報を比べて正確な情報を信じたいです。

NHK のニュース番組や民放のニュース番組を見る機会が多いのですが、実際本当に信じていい内容なのか、NHK と民放のどちらを信じればいいのかなど疑問に思っていたところを、小川局長がわかりやすい説明をしてくださってニュース番組への信頼性などがまた深まりました。元々ニュースをもとに今日本や世界で何が起こっているのかという情報を取り入れていたので、今回の話を聞いてフェイクニュースなどに気をつけながらこれからも利用したいと思いました。

SNSでの"いいね"が情報拡散の一つになっていることに驚きました。私自身、"いいね"が多くついている投稿は支持を得ている情報として、信用してしまっていた点があった為、情報拡散・発信の認識を誤っていたので情報の取り扱いをより一層真剣に責任を持って関わっていきたいと思いました。

お話を聞いていて普段長く感じる2時間もあっという間な2時間でした。今の社会だからこそ起きてしまう、誤情報の拡散。鵜呑みにせずにしっかりと吟味して、確かな情報を得ができるようにしていきたいと思います。また自分から発信する際にも、曖昧な表現だったり、不確かな情報を伝えるのではなく、正しい情報を確実な言葉選びで発信していきたいと思います。また、感情的になり突発的に誰かの悪口を書き込んでしまったり、誹謗中傷をしてしまうことは絶対ないようにします。これから誹謗中傷で悲しむ人、亡くなる人がいなくなるといいなと心から願っています。有意義な2時間を過ごせてよかったです。あまりニュースを見ない私ですが、少しの時間でも見て、今ある社会の問題に耳を傾けようと思いました。

ランドル.W.ヴォス校長の感想

成年年齢の引き下げが施行されたことにより、2年もすれば“大人”とみなされる高校1年生に対して、少しでも早くニュース・政治に触れてほしいという想いから、今回の講演の場が実現しました。大人になって世界が広がるほど必要となってくるのが“情報を見極める力”です。きめ細かい配慮のもと、視聴者に早く・正しく・中立な情報を届け続けているNHKの方からメディアリテラシーについてご講話いただけるのは本当に光栄な機会でした。



ヴォス校長と小川局長

今回のお話を受けて、生徒一人ひとりが、自分自身が持つ発信力と、その影響の大きさを理解し、責任を持って、真剣に、確かな情報を送受信してほしいと思います。小川局長、NHKサービスセンターの皆さん、この度は貴重な機会をいただきありがとうございました。

NHK水戸放送局長による初の高校生を対象とした
メディアリテラシー講演会が開催されました。

学園ページでも、詳しくお伝えしています。こちらからどうぞ▶



H TOPICS T

歓喜！ 対面でのクリスマス！

クリスマスイベントも3年ぶりに対面で開催されました。12月の学園クリスマスでは、学生・生徒の素晴らしい歌声や演奏をキアラ館で分かち合えたことに、参加者一同大きな喜びを感じました。

また、JR水戸駅の風物詩、アドビラー(柱巻き)広告にはウクライナ人留学生もモデルで登場してくれました。各方面で物事が前に進み始めています。

3年ぶりの 沖縄修学旅行！

11/30～12/3にかけて、高校2年生が3泊4日の修学旅行に行ってきました。新型コロナの影響で中止や行先変更などを余儀なくされてしまいましたが、3年ぶりの沖縄です！豊りがちな天候など関係なく、行く先々で生徒たちの晴れやかな笑顔が見られました！来年度はぜひ一貫生のアメリカ研修旅行も復活してほしいです！



記事リンクから高校ブログにて旅行の様子がご覧いただけます。



アンケートに
ご協力
ください！

アンケートは
こちらから



ご意見・ご感想はもちろん、こんな人・活動を取り上げてほしい！などネタ提供もお待ちしています！

本ニュースレターに関する問い合わせ先:gakuenkoho@icc.ac.jp
法人事務局 学園広報担当 新妻 幹生
[電話の場合は、0294-52-3215(代)]

2022年度・第74回 シオン祭を3年ぶりに 対面で開催しました！



3年ぶりに対面で開催することができたシオン祭。コロナ禍でも安心して楽しんで頂けるよう、感染対策を充分実施しながら、例年好評なお化け屋敷や模擬店、ステージ発表をはじめ、移動動物園や花火の打ち上げなど新たな企画も用意しました。当日は多くの方にご来場いただき、実りあるシオン祭となりました。

大学

入試を実施しました！

第1回入試・第2回入試を無事に終了しました。中高一貫校の増加により、以前よりも中学受験にチャレンジする小学6年生が増加しています。本校も多くの受験生をお迎えしました。学園講堂で受付、受験上の注意などの説明を受けた後、いよいよ試験室に移動します。試験中の受験生の様子は真剣そのもの！次は入学式でお会いできることを楽しみにしています。



12月 クリスマス 礼拝・祝会を 行いました

3歳児以上の園児たちが、イエス様の誕降をお祝いして、各園にてクリスマス会を行いました。第1部礼拝では、5歳児が聖劇を行い、聖書の言葉や讃美歌を用いてイエス様の誕降を皆に伝えました。第2部祝会では、クラスごとに発表を行なながら楽しく、お祝いすることができます。



編集の一と



学園広報 三月号
新妻 幹生

こんにちは、学園広報の新妻です。学園ニュースレター『つなぐ』vol.5、発行しました。表紙をはじめとして、新型コロナウイルスの流行で長く続いた「非日常」の日々に、ぼつぼつと「日常」が戻り始めたことが伝われば嬉しいです。「止まない雨は無い」と言うように、辛いことは必ずいつかは終わりが来て、その後には幸せが訪れるようになっています。現に、今私の周りには、「これまでの自粛ムードはもう終わり、今年は色々なことに取り組んでいきたい！」というチャレンジングな人が多いです。これからは、かつてと同じではない「日常」をどう捉え、どう描き、乗り切っていくのか…迷いながらも、光の指す方向を目指して動き出す学園の取り組みを取り上げていきたいと思います。

(2023/01/26)

vol.6は2023年5月ごろ発刊予定です。最後までお読みいただきありがとうございました。

